

GOVERNOR'S

Monthly Letter VOL.9



Rotary International
District 2800
2011-2012



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2012
March

ガバナー
月信

3



国際ロータリー第2800地区【2011-2012年度】

ガバナー 細谷 伸夫 RI会長 カルヤン・パネルジー RI会長エレクト 田中 作次 RI理事 近藤 雅臣

思いやりの心を育む五つの行動



2011-2012年度
国際ロータリー
第2800地区

ガバナー

細谷 伸夫
(山形西RC)

思いやりの心を育むにはどうしたらよいでしょうか。

1 人間多様性を認識すること。

社会には色々な人がいます。国籍、文化、性、年齢、職業、考え方の違い。

違いを認識することにより相手を考える余裕が生まれます。この点で交流は重要です。異業種、外国人、若者等との交流は違いを認識させます。先ず自分と異なるこれらの人々がいることを認識し、理解すべきです。

2 相手の話をよく聞くこと。

相手のニーズを探る。思いやりとは相手の気持ちを探り、それに応ずること。しかしこれが難しい。思い込み、我がが出て、素直に人の話を聞く事ができません。聞く時は、こだわりを捨て、無の心で対峙しなければなりません。すると相手の心がわかり、相手を思いやる事ができます。

3 相手の求めに応じられるだけの能力を持つこと。

溺れる者を救うには先ず自分が自由に泳げる人でなければなりません。奉仕をするには、被奉仕者の求めに応えられるだけの力量を持つ必要があるのです。能力を高めるには勉強が欠かせませんが、現実には目の前で展開する現象は常に知識より遙かに先に進んでいます。ですから現場で自分だけを頼りに体験する事（五つ目の行動）が必要でしょう。勉強と体験は成長という車の両輪です。

その意味で、先ず例会参加で学び、奉仕を実践することで体験し、そして両輪で自己の職業をしっかりと果たすことであります。

4 被害者意識を持たないこと。

この前、機会があり少年鑑別所の所長さんの話を聞きました。

その中で、少年の心を開き本心を語ってもらうのは、なかなか難しいものであると言われておられました。その原因の一つは、少年は犯罪を犯したわけですから「加害者」であるわけですが、「被害者」であるとの意識を強く持っているから、といいます。学校でいじめられ、家庭で無視され、社会で邪魔扱いされているのです。

所長さんの言葉によれば、「被害者」と思っている間は、他の人に対する思いやりは生じないとのことです。被害者意識が無くなって初めて、他の人のことを見ることができ、他の人の話も聞けるようになる。そうすれば、そこに他人に対する配慮や、思いやりが生じてくる、と言っておられます。

大人の社会でも同じでしょう。高齢者や、車椅子などの障害者などが歩道をゆっくり歩いていると、急いでいる自分が、速く歩けよ、邪魔だなあ、等と、自分の歩行が妨げられたことに対する怒りが出て、被害者意識が芽生えてしまいます。すると、高齢者が転んだり車椅子が轍にはまり動けなくなっても、手を貸そうとは思わず、追い越し、速く歩けることに喜びを感じてしまうことがないでしょうか。これでは高齢者、障害者に対する思いやりの心は出ません。

5 自ら実践し、体験すること。

最も重要な事は、自ら思いやりの心を実践し、相手の喜ぶ顔に自らが喜ぶ事を積み重ねる事です。相手の喜ぶ顔を見て自ら喜び、それにより又思いやりの心を実践するというプラスの循環が生まれ、人は大きく成長していきます。これが最も良く心に思いやりを育むチャンスであります。思いやりの心の発現としての奉仕活動を自ら身体を動かして実行すること。汗をかけば、その汗が心に染み渡るはずで、身体を使っただけの震災被災者支援などは思いやりの心を大いに作ることでしよう。

… 公式訪問を終えて …

猛暑の中で始まった公式訪問が凍て付く豪雪の12月で終わりました。各クラブには大変お世話になりました。地区52クラブにはそれぞれの特色があり、ガバナーとして大変勉強させて頂きましたと共に、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

1 全体として、2800地区のクラブはとても和気あいあいと仲の良いクラブであると感じました。これが2800地区の特徴なのでしょう。とても良いことです。人との出会いを楽しんでおります。これは大切なことです。ただ、仲が良すぎて目が会員だけの内部にだけ向けられてしまい、外に対して目を向けない傾向があると思いました。他のクラブの事、地域の事、社会の事、そして世界の事にも目を向けて出会いを得てこそ、世界的ネットワークとしてのロータリーの特色を生かせる事になると思います。

2 各クラブの個々の留意点は公式訪問で指摘させて頂いたとおりですが、全体として、次の点が気になりました。

① ロータリーに対する意識が低いクラブが多々あります。それは例会及び年間プログラムでのロータリーに関する研修が足りないことにあると思います。

② 社会奉仕活動を熱心にやっているクラブもありますが、全体として低調であります。

ロータリーは頭で考えることではありません。奉仕の理想、思いやりの心を実践し、それがまた自分の心を育てるのです。社会奉仕は、身を以て奉仕を感じ、会得する良い方法です。社会的ニーズの探索が必要であります。市町村長を表敬訪問した際には、首長さんより多くの要望、社会的ニーズが寄せられました。あるのです。もう一度チャレンジして下さい。

③ 具体的目標設定がなされていないクラブがあり、活動がマンネリ化しています。継続は反復ではないことを認識しなければなりません。毎年変革を求めなければなりません。事なかれ主義、前例主義はロータリーに向きません。ロータリーが単年主義をとる所以です。

④ ロータリーは親睦と奉仕が車の両輪であります。親睦に見合った奉仕活動がなければ車

は同じ所を回るだけで前に進みません。そのあたりの調和を図りたいものです。

⑤ 新世代奉仕はインターアクト、ローターアクト活動だけと思っているクラブが多い様です。又、国際奉仕もWCSだけと思っているクラブも多い様です。もっと基本に戻り、何が奉仕なのかを考えてほしいものです。そうすれば視野がもっと広がるはずです。

⑥ 良い点を伸ばし、弱い点を克服してほしいものです。

意外にも自分の事の良い点、悪い点は気付かないものです。しかし気付かずにやっていくとマンネリとなり、発展はしないどころか衰退します。常に見直し、修正し、改善していかないと沈滞します。「楽あれば苦あり」です。

⑦ 今年度の合同の公式訪問は尾花沢RCと尾花沢中央RCの合同例会だけでしたが、合同例会は他のクラブの実情を知る上でも大いに役立ちますので、今後も続けて頂きたいと思えます。

3 各クラブには是非、会長・幹事会での議論の点、例会での話を、思い出しながら、各々得意な点を伸ばし、不得意な点は改善するようこれからも努力して頂きたいと願います。必ずや元気で活気のある楽しいクラブをつくる事が出来るでしょう。

あと半年、目標達成に向けて頑張ってくださいと念じます。思いやりの心を育て、博愛を広げましょう。



国際協議会へ参加して

アメリカ合衆国カルフォルニア州サンディエゴ



2011-2012年度
国際ロータリー
第2800地区

ガバナーエレクト
和田 廣

田中作次RI会長エレクトは、「奉仕を通じて平和を」というテーマを発表されました。

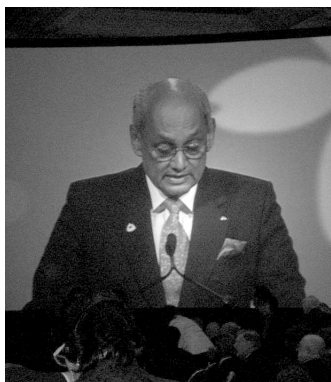
私達は、ロータリーでも「平和」という言葉を頻繁に口にする言葉ですが、「平和」とは何なのか、どういう事なのかをあまり考える事はありません。一番簡単に理解するには、「平和」ではない状態がどのようなのかを語る事で、それは、戦争や暴力や恐れる事のない状態、又、飢餓や、弾圧や貧困を恐れる事のない状態です。逆に「平和」は発言と選択の自由であり、自己決定の権利であると定義出来ます。安全で安心出来る未来を意味し、安定した社会での人生と家庭を意味する事とも言え、幸福感や心の平穏、静けさでもあると言えますと話され、平和という概念は人によって、文化によって異なります。心の平安や家族の幸せ、満足感を指す場合もあるでしょうし、人間の基本的なニーズが満たされた安全な状態を指す事もあるでしょう。平和をどのように定義するにせよ、それは奉仕を通じて達成できる目標ですと力強く宣言されました。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに最も必要とされている地域で応える事が出来ます。そして、友情、つながり、思いやり、絆といった私達の心のニーズにも応える事が出来ます。

「超私の奉仕」は単なる標語ではなく、誰の人生をもさらに豊かで、有意義なものにする生き方を示していると思います。そして、人はみな自分だけでは生きていけない事を教えてください。人との関わりのない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きる事で、この世界における自分の役割がはっきり見えてくるのです。ロータリーのビジネスは、利益の追求ではなく平和の追求です。ですから、私達にとって、報酬はお金を手に入れる事ではなく、自分の努力によってより良い、より平和な世界を実現するのを見届ける事にあります。

「平和」がロータリーにとって究極の、そして実現可能な目標である事を理解し、「奉仕を通じて平和を」の精神を持って邁進して下さいと訴えられました。この要望を受け、出来るだけ応えていかなければならないと思います。田中会長エレクトが「奉仕を通じて平和を」をテーマとされた背景には、1つとして、「どんな些細な事でも、人を助ける事がいずれは平和に繋がる事に気づきました。」と言われている事で、2つ目として、ロータリーは、「保健、衛生、食糧、教育等の人々の基本的ニーズに、最も必要とされている地域で応える事が出来ます。」と言われている事だと思えます。人道的奉仕が「平和」へと繋がるという強い信念の元につくられたテーマであると理解しています。国際協議会では、田中作次会長エレクトの講和の他に13の項目について講和があり、さらに体験談が数回加わりました。

カロヤン・バネルジーRI会長は、私達一人ひとりに、可能な限り最高のリーダーになるという義務と責務、言わば神聖な務めがあります。地区



ガバナーには多くの責務がありますが、一番の役割は、クラブを支援する為にいるのだと言われ、私の思いと一致した言葉で非常に印象に残っています。そして私達がここにいる理由（ロータリアン）は、仕事（ロータリアンとしての）であり、奉仕であり、私達の活動が世界に与える影響でなければなりません。つまり、私達の中核的価値観が重要なのです。ロータリアンとして、またリーダーとして、ロータリーで行う活動は全て、中核的価値観と信頼に基づいたものでなければなりません。優れたリーダーとしての資質を全て考えた上で、それを一言で表すなら、それは「信頼」という一言に尽きると思います。優れたリーダーとは信頼出来る人です。全ての質問に答えられるとは限りませんが、質問への答えを深手手伝いをし、人の話に耳を傾け、相談者の懸念を避けたりせず、真剣に時間を割いてくれます。優れたリーダーの究極の基準は「もし自分がガバナーになるなら貴方のようなガバナーになりたい」と言うようなリーダーです。このようにリーダーのあり方についてお話がありました。

ウィルフリット J. ウィルキンソン ロータリー財団管理委員長エレクトは、ポリオ撲滅が達成される可能性が大きくなってきているように感じます。2012-13年度の財団目標の最優先は野生ポリオウィルスの伝播を食い止めるという事です。世界ポリオ撲滅推進計画には、独立監視委員会があり、推進計画の進捗について定期的に報告を行っています。10月に最新の報告が出されたのですが、目の覚めるような内容でした。報告書は、このように締めくくられています。「実現は、間違いなく100%可能である。」つまり、必要とされる事を実行すれば、2012年までの目標達成は可能だという事です。私としては、誠心誠意力を尽くし、出来る事は何でも実行して、2012-13年度にロータリーの長年の願いを叶えるつもりです。という強いメッセージを寄せられました。

ジョン・ヒューコ国際ロータリー事務総長は、ロータリーが2世紀目を迎えた今、確固たる基盤を築

いてゆく上で重要であると考える5つの事柄について、お話をされました。優先項目の一つ目はポリオの撲滅です。ポリオ撲滅を完遂しなければならない理由は3つあります。1つ目は、何十万もの子供を守る事、2つ目は、この先20年間で400～500億米ドルの医療費の節約につながり、次の世界的問題に充てられる事。そして、3つ目は次の世界規模の保健課題に取り組む基盤が出来る事です。二つ目の優先項目は、R I 戦略計画を「稼動」させる事です。三つ目の優先項目は、世界34,000クラブが年間に取り組む奉仕プロジェクトの全体的価値を測る為の信頼出来る方法を見つける事です。ポリオ資金を除けば、ロータリー財団が扱う資金の総額は、毎年約1億ドルである事が分かっています。基金の総額、現物寄付、世界中の奉仕プロジェクトに費やされる労力を合計したら、10億ドル単位の莫大な額となる事は間違いなく、価値を算出する確かな方法を見出さなければなりません。四つ目の優先項目は、会員増強です。ロータリーは若い人々が魅力と重要性を感じるような団体にならなければなりません。さらに、100年に一度は自身のブランドを真剣に見直すべきだと思います。ブランドには、ロータリーという名前を聞いた時にどのような感情が沸くかという、直感的な印象が含まれています。そういう意味で、ロータリーとは何か、どういう理念や方向性を持っているのかという一般の人々の間に対し、答えを与えるのがブランドです。その事が、会員増強に結びつくという事であると思います。五つ目の優先項目ですが、ロータリーを人道的支援と国際開発分野における世界有数の団体の一つとして、しっかりと位置づけるという五つの優先項目を述べられました。国際協議会では、まだまだ沢山の事を学んでまいりました。機会ある毎に伝えてまいりたいと思います。



「第5回全国RYLA研究会に参加して」



ライラ小委員会
委員長

安孫子俊彦
(山形東RC)

1 平成24年2月5日、東京のグランドプリンスホテル新高輪にて開催された全国RYLA研究会に参加してきましたので、そのご報告をいたします。

全国RYLA研究会は、毎年全国各地から100名を超えるロータリアンが集い、RYLAプログラムの活性化、RYLAに関する地区相互の情報交換、RYLAの問題点の改善について話し合う会議で、今年で5回目を迎えました。今年の全国RYLA研究会には、総勢約130名のロータリアンが参加し、当2800地区からは、和田廣ガバナーエレクト、佐藤孝子新世代奉仕委員長および私の3名が参加しました。

2 午前10時の開会点鐘により始まり、最初に南園義一元RI理事による「RYLAとリーダーシップ」という演題の基調講演がありました。ロータリーの新世代奉仕の目標は、新世代のプログラムを通じて、青少年を社会に貢献できるような成人に育成することであり、また、ロータリーが指標とするリーダーシップとは、誰かが指令する「縦型のリーダーシップ」ではなく、皆、「超我の奉仕」という同じ船に乗っている「横型のリーダーシップ」であるというお話をされました。

続いて今井鎮雄元RI理事による「RYLA再考～世界とロータリーの未来への変化の中で」という演題の基調講演があり、そのお話を聞いてRYLAが青少年に対しロータリーの理念を伝える

重要な機会となっているという事実を改めて認識しました。

午後には、2名のRYLArian（RYLA修了者）からの報告がありました。一人目は、国連大学に勤務されている方で、RYLAに参加してみて、幅広い知識と国際的な視野を得たこと、ロータリークラブの取り組みへの理解が深まったことを話されていました。二人目は、日本赤十字社に勤務されている方で、RYLAに参加して学んだこととして、「フォロアー」という考え方（リーダーの周りの人たちを「フォロアー」といい、「フォロアー」として、リーダーシップをとっている人が動きやすいようにフォローすることがとても大事であるということ）と、メタ認知（自分の思想や行動そのものを客観的に把握し、認識すること）を挙げていました。

引き続きパネルディスカッションがあり、3地区の代表者がパネリストになり、RYLAの実施状況の報告などがありました。RYLAを開催するうえで工夫した点や反省点を交えた報告でしたので、これから当2800地区のRYLA開催に向けて準備していくうえでも大変参考になりました。また、RYLA参加希望者が多数で、参加者を絞らなければならなかったという、羨ましいようなお話もありました。

最後には活発な質疑応答がなされ、RYLAに対す各ロータリアンの熱い思いに触れることができました。

3 当2800地区では、平成24年6月9日(土)と6月10日(日)の両日、庄内町の北月山荘にて、19歳から30歳までを対象とするRYLAを開催しますので、ロータリアンの皆様、参加者の推薦をお願い申し上げます。



第6ブロック職業奉仕セミナー報告

職業奉仕委員長 上杉 勝己
(米沢中央RC)

置賜地区第6ブロック職業奉仕セミナーは、1月28日(土)南陽市中央公民館にて、網代ガバナー補佐・黒澤ガバナー補佐よりすべての準備をお願いして開催いたしました。

41名の参加をいただき、賑やかなものとなりました。

はじめに細谷ガバナーより、職業奉仕の重要性をしっかりと教えていただきました。

基調講演は、鈴木悦郎地区職業奉仕委員(大江RC)よりロータリーの歴史と職業奉仕の誕生、またロータリーの中核となる価値観は職業奉仕とイコールであることをしっかりと伺いました。

体験発表として鈴木一作地区職業奉仕委員(寒河江RC)より、ロータリーの言葉の誤解の体験をお話いただきました。

皆さまも感心して聞いておられました。



第3・第4ブロック職業奉仕セミナー報告

職業奉仕委員長 上杉 勝己
(米沢中央RC)

2月4日(土)大雪の中、第3・第4ブロック職業奉仕セミナーを天童ホテルにて、42名の参加をいただき開催いたしました。

細谷ガバナーのユーモアあふれる職業奉仕の話をお伺いしました。

基調講演は菅原昭治地区職業奉仕委員(鶴岡東RC)より、ロータリーが誕生した時代背景、職業奉仕が生まれたことの必然性、ロータリー用語の解説等、事細かく納得されるまでお話された事が印象に残りました。

体験発表として、太田貴志地区職業奉仕委員(山

形東RC)が、私の職業は(歯科医師)ロータリーの職業奉仕そのものであると話され、職業奉仕の神髄を伺ったような気がします。

県内を4ブロックに分け行い基調講演は委員が分担して行ったことに対して、ガバナーより評価をいただきました。

今回をもちましてすべてのセミナーが終了いたしました。

ご協力ありがとうございました。



第2回ロータリー情報研修セミナー報告



ロータリー情報・研修・
ICO小委員会
委員長
赤谷 典夫
(酒田スワンRC)

昨年10月1日のクラブリーダー候補、新入会員向けの分科会方式に続いて、今回は登録者数111名、クラブリーダー候補のロータリアンに対しての集中研修とし、佐藤豊彦パストガバナー、塚原初男直前ガバナーを研修リーダー並びにカウンセラーにお迎えし1月21日に山形グランドホテルにて開催をいたしました。限られた時間でしたが地区内3名の講師の講話による研修プログラムといたしました。



細谷伸夫ガバナーの点鐘に続き、最初の講師の藤川享胤パストガバナーは「随処に主となる奉仕の理論」の演題でロータリアンとしての奉仕について、最近のニュースやブータン国王の来日より、

見え、気づかされたこの国の心の問題を挙げ、ロータリアンの5大奉仕の原動力は「友愛」と説かれました。ロータリーの先人の言葉、「意見の異なる事項に結論を急いではならない」はロータリーと政治、クラブ内の融和に対しても適用できる言葉と理解、さらに国際間の「愛国心の差異を理解しているか」、「人種の優越感に歯止めがなされているか」、「多国間に合意はあるか」、「平和は公平に地球上の国にもたらされているか、そうしているか」など多様性を認め寛容が大切と話された。松尾芭蕉の“不易流行”にロータリーの精神における不偏性とその活動に対しての時代への的確な追従性、吉田松陰の“至誠通天”のことばにロータリアンとしての品格を求め「随

処に主となる奉仕の理想」を実践すべきと講演された。

続いて「ロータリー財団」について、池田徳博ローター財団委員長からは財団補助金制度が2013-2014年度以降に大きく変わることを主として説明された。特に新地区補助金、グローバル補助金、ロータリー平和フェロシップにおける資金源、額、専攻分野、申請手続き、制限、期間、そ



その他、となにかと難解に感じられるこれらについて、資料比較表にて丁寧な説明がなされた。補助金の中では、継続性を求め、また運用監視が求められる制度になるものもあり、これまでのようにプロジェクトの実行で完結とすることや、送りっぱなしのような資金の利用が制約されるものもできたこと、人道的プログラムのみならず教育的プログラムにも適用される補助金区分の形態に変更される予定があることも説明された。現在も続くポリオプラスと資金、そのほかにもやるべき分野、早急に実効性を上げられる分野への活動との折り合いをどのようにしていくか等についても考慮すべきと説明をされた。なお、このことについて後ほどの質疑応答で2800地区内でこの補助金制度で実行可能なポリオプラスの延長線上のプログラムを模索する意見が出され、前向きな意見が交わされたことを報告させていただくところであります。地区補助金とグローバル補助金のバランスの取れた利用配分が必要、その額の大きさを考慮し、地区として新しい委員会および監査を立ち上げる必要があることも示された。

最終研修プログラムは「これからのロータリー」の演題で細谷伸夫ガバナーが講師を担当された。

「今、ロータリーはどのような問題に直面しているか」と会場への問いかけを行いながら進められた。会員増強の頭打ちは経済状況やロー



タリーへの興味が薄れてきているためとしても、もっと大きく影響を及ぼしている事柄に、現在の社会問題が背景にあることを挙げられた。行過ぎた個人主義による社会的自由放任の世界は利己主義、傲慢、集団への不振、組織への未加入傾向が顕著であり、社会によりよい人間関係が構築されない状態であり、ロータリーの会員増強にも大きく影響を及ぼしていると話をされた。行過ぎた自己表現、セレブ番組の氾濫、インターネット上の表現問題、クレジットによる借金先行型社会に対して、自分を変え、社会を変えていく必要性が強く求められるとし、これからのロータリーは以下を追及する必要があるとされた。

1. これまでのやり方を反復するのだけでなく、社会時要請を調査し的確に対応する。

2. 超我の奉仕、職業奉仕の基礎となる利他の心、思いやりを養う教育、自由放任社会を変える奉仕活動（職業、新世代、社会奉仕）の実践。
3. これからのロータリーは会員、市民の心の問題に目を向け、心の鍛錬を主とする。

社会に合わせてロータリーの役目も変化させてゆかなければならない。「ポールハリスはシカゴの現状を見てロータリーを作ったが、現在の状況を見てロータリアンは何をなすべきか」と問いかけ心の問題を考え続けなければならないと講話された。

これまでの細谷ガバナー年度のロータリー情報研修に際して、快く講師をお引き受けいただきましたパストガバナー、委員長の皆様、また準備運営にご指導ご協力をいただきました地区幹事はじめとするガバナー事務所の皆様に深く感謝申し上げます。



米山奨学生歓送会の報告



米山奨学委員会
委員長

小嶋 信一
(山形RC)

米山奨学生歓送会は、2月11日(土)11時よりパレスグランデールで開催しました。

この度の修了者は5名ですが、インフルエンザのため2名が欠席し、出席者は3名でした。

細谷ガバナー及び野々村パストガバナーG(米山理事)より、当奨学会の特徴と意義、奨学生への励ましと、世話クラブ並びにカウンセラーへのねぎらいのご挨拶を頂きました。

奨学生のスピーチでは、カウンセラーから親切にしてもらったこと、各クラブやカウンセラーの家族との交流の思い出、そして将来の抱負などの話がありました。

また、カウンセラー各位からは、奨学生の方が日本人よりも日本語が上手いという話や、奨学生を世話する中で国際交流の楽しさやそれぞれの文化を理解しあうことの意義などを、カウンセラーとして奨学生と交流した経験の中で理解されたことなどが報告されました。その後の昼食会は和気あいあいの中で行われ、米山奨学生歓送会に相応しい会になったと思います。

米山奨学卒業生諸君の学業の成就とこれからの活躍を祈念して報告いたします。

米山を卒業して 米山奨学生 劉春艶

私は2011年米山奨学生を選ばれた。実は、私は2010年大学院に入った時から奨学金をもらっている。ただし、大学院1年生時の奨学金は、銀行口座を利用して、奨学金を自動的に振り込まれた。私に奨学金を支給された財団との交流は全然なかった。大学院2年生から、ロータリー奨学生に選ばれた。ロータリー奨学金は他の奨学金と違って、奨学金の支給だけではなく、ロータリークラブのメンバーとの交流や異文化コミュニケーションも重視する。私は、山形県大江ロータリークラブを世話クラブに選ばれた。私は、日本に留学来てから、ずっと山形市内に住んでいる。大江町は山形市より電車で1時間ぐらいだが、残念だが、一回も行ったこともなかった。大江ロータリークラブは私の世話クラブになってから、大江町のことをゼロからスタート、だんだん好きになる。大江町との出会いは春である。当時、月山の山頂はまだ少し雪が残っていた。最上川は静かに流れていた。今は冬の時期なので、大江も真っ白になった。来月3月は、奨学金支給の最後である。しかし、私は大江町との

縁結びは春から始まり、春で終わりだとは思わない。これから、ロータリー奨学生から卒業しても、必ずロータリーのことが関心を持って、クラブのメンバーたちと連絡を取っていきたい。

私は4月1日頃、中国に帰るつもりだ。まだ日本にいたので、気にいった会社との面接もできてなく、就職活動はぜんぜんやっていない。帰ってから仕事を探し始めるつもりだ。私は、大学院から卒業すると、学生ではなくなる。社会人になる自分はまだ一回人生の起点にスタートする。新しく、輝く自分を挑む。



新たな旅立ち …………… 米山奨学生 エンibold ボロルトヤ



米山奨学生となり、2年間が経つ。もともと私はロータリークラブと深い縁があると思う。私の母校である新モンゴル高校はロータリークラブ（RC）のご支援があってからこそ設立した高校であり、校長先生も元米山奨学生

であった。山形大学に入学してから、東根工業高校と一緒に「光プロジェクト」に取り組んだが、このプロジェクトが実施され、成功したのもRCのお陰だった。その後、米山奨学生となり、前以上にお世話になることになった。毎月世話クラブの会長さんから受け取る奨学金は手渡しなので、その重み、皆さんの私へのご期待を強く感じる。また、カウンセラーとして日本人のママができて、

なんでも相談に乗ってくれるのがすごく助かっていた。これらのことが私に大きな励みとなり、頑張る原動力となっていた。

卒業後は帰国し、就職活動をする予定である。モンゴルの事情を中に入れて、自分の身で感じ取って、やるべきことを改めて考えていきたい。米山奨学生になったことを非常に誇りに思っている。そのお陰で、地域の方々との交流が増し、お互いへの理解が深まったと思う。「平和は力で維持するものではない、理解によって成り立つものだ」というアインシュタインの言葉がある。今後はもっと日本を理解し、母国のことも知り、両国の架け橋となる平和を築けるような国際人になりたい。これからも、米山学友として頑張っていきたい。2年間お世話になりました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「人生」は「旅」…………… 米山奨学生 フランク ゲラルド ヨスア

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」



上杉鷹山の名言でよく知られているこのフレーズは、当たり前のように聞こえるかもしれないけれど、実に深い意味を示している。人が何かを為し遂げようという意思を持って行動すれば、何事も達成に向かうのである。ただ

待っていて、何も行動を起こさなければ良い結果には結びつかないであろう。結果が得られないのは、人が為し遂げる意思を持って行動しないからだ。

努力せずに、成功を収めることは出来ない。勿論、人生の中では一つのことに没頭し、一所懸命に努力しても、報われない時がある。しかし、「為せば成る」の精神で努力することによって、失敗しても再び挑戦する気力が生まれる。しっかり目標を定めて、実現するために努力を続けると、絶対に報われる時が来る。

「人生」は「旅」に例えることが良く耳にすると思うけれど、「旅」というのは決して楽しいこ

とばかりではない。山あり谷ありこの人生では、絶対に楽しい時もあり、苦しい時も訪れる。私はロータリー米山奨学生としてロータリアンの先輩方から頂いた御指導やアドバイスを活かして、決して楽ではないこの「旅」を続けて行きたいと思っている。米沢から離れても、上杉鷹山がおっしゃった言葉、「為せば成る 為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」、頭の片隅に置きながら、人生で何回も壁に当たっても、再挑戦して頑張っていきたい。最後に、国際ロータリー第2800地区や米沢おしょうしなロータリークラブ会員の方々、そしてこの一年間私のカウンセラーを勤めていただいた、新田英行様に深く感謝いたします。



いよいよ地区大会迫る

多数のご参加
お待ちしております。



2011-2012年度
国際ロータリー第2800地区 山形

地区大会のご案内

「思いやりの心を育て、広めよう」
～自分に、家庭に、地域に、世界に～

2012 3/31^土 ▶ 4/1^日

●地区大会プログラム●

3/31^土

山形グランドホテル

- 10:00 登録受付
- 10:30 地区大会委員会
- 11:45 国際ロータリー会長代理を囲む昼食会
- 13:00 登録受付
- 13:30 第1回 本会議 (会長・幹事・地区委員長会議)
- 15:00 地区指導者育成セミナー
「リーダーシップの継続」
講師：ピチャイ ラタクル氏
- 「青少年育成」
講師：ジャンチブ ガルバドラッハ氏
- 17:00 復興支援「がんばれ東北」キャンペーン
フラガール公演 (スバリゾート ハワイアンズ)
- 17:30 国際ロータリー会長代理 歓迎晩餐会

4/1^日

山形県民会館

- 8:30 登録受付
 - 9:30 第2回 本会議
昼食タイム
 - 14:00 演奏「がんばれ東北」陸上自衛隊音楽隊
 - 14:30 特別講演「博愛を広げる ロータリーの心」
講師：ピチャイ ラタクル氏
 - 15:40 第3回 本会議
- パレスグランデール
- 17:50 会員懇親の夕べ



国際ロータリー会長代理
ピチャイ ラタクル氏

元国際ロータリー会長

プロフィール

1926年9月16日 タイ王国バンコク市にて出生

＜ロータリー歴＞

1958年 タイ トンブリロータリークラブ入会 (創立会員)。
その後、クラブ会長、地区ガバナーを務める
1985-86年度 ロータリー財団管理委員
1990-92年度 国際ロータリー理事
1991-92年度 国際ロータリー理事執行委員会委員長
1993-94年度 国際ロータリー国際大会委員会委員長
2002-03年度 国際ロータリー会長
2007-08年度 ロータリー財団管理委員長

＜学歴学位＞

バンコクと香港で教育を受け、バンコク ラムカムヘーン大学
ならびにカリフォルニア州ケンジントン大学から政治学の名誉
博士号、ニューヨーク州セントジョーンズ大学から法学の名誉
博士号を授与される。

＜実業活動＞

製薬会社社長、タイ国薬品工業会会長、タイ国商業会議所理事
などを歴任

＜政治活動＞

1969年より、国会議員を9期務め、その間、民主党党首、外務
大臣、副首相、下院議長、国会議長その他の要職を歴任。

＜社会活動＞

ボーイスカウト運動では、タイ王国スカウト連盟の名誉副会長。
スポーツでは、1998年バンコクで開かれたアジア競技大会の組
織委員会委員長を務め、国際オリンピック委員会から表彰を受
ける。

＜各国から受けた栄誉＞

タイからは最高勲章である白象勲章特別一等大綬章など、日本
からは勲一等旭日大綬章、その他韓国、フィリピン、オースト
リア、ニカラグア、イタリア、ブラジル、ベネズエラから勲章
が授与されている。

＜家庭＞

チャロイ夫人、3人の子供と5人の孫。趣味は園芸と読書。

大会エクスカージョン

そば打ち体験 & 世界の「オリエンタルカーペット」視察

2012 3/31^土 出発場所/山形グランドホテル
出発時間/10:00 出発

参加費 3,000円 (昼食代)

旅程表

- 10:00 山形グランドホテル
- 10:15 鈴木製粉所「石臼館」
～12:45 そば打ち体験 (昼食付)
- 13:30 オリエンタルカーペット
～14:30 (視察)
- 15:30 山形グランドホテル



3/31^土 講演「青少年育成」

講師

ジャンチブ ガルバドラッハ氏

新モンゴル高等学校 中学校 小学校 校長 兼 理事長

1963年 5月18日 アルハンガイ県にて出生
1981年 ウランバートル市立第53番学校 卒業
1986年 モンゴル国立大学物理学部 (理論物理) 卒業
1995年 日本政府奨学金教員研修生で山形大学へ
1997-1999年 山形大学大学院修士号取得
1998-1999年 RC2800地区 山形北RC米山奨学生
1999-2004年 東北大学博士課程入学
東北大学教育学研修博士課程所属
2000- モンゴル 首都ウランバートルに
新モンゴル高等学校を設立
新モンゴル高等学校 中学校 小学校 校長 兼 理事長

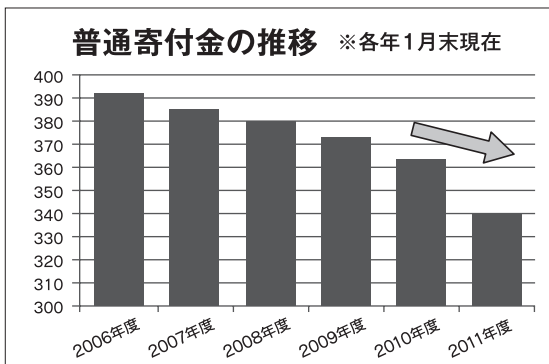


ハイライトよねやま

1 寄付金速報 — 2012年下半期も厳しいスタート —

1月までの寄付金は前年同期と比べて3.9%減、約3,800万円減少の9億4,500万円となりました。普通寄付金が6.4%減、特別寄付金が2.5%減でした。

普通寄付金については、1月末現在、全クラブの68%にあたる1,548クラブからご納入いただいておりますが、昨年同期(79%、1,822クラブ)と比較すると、納入状況に遅れがみられます。また、地区内全クラブのうち、普通寄付金を送金いただけないクラブが4割以上にのぼる地区が9地区あります。ご確認いただき、お早めにご送金くださいますようお願い申し上げます。



💡 ご存じですか? 普通寄付金も税制優遇の対象です! 毎年10月末までにご申請ください!

米山奨学金への寄付金は、特別寄付金(任意寄付)だけでなく、普通寄付金(半期に1度、クラブ会員数分を送金いただく寄付)も税制優遇の対象となります。普通寄付金については、毎年10月末までに、その年の1月と7月分をクラブ事務局から申請していただくことで、申告用領収証を発行することができます。

2 新規米山奨学生が決定!

新規米山奨学生の面接選考が各地区の選考委員会によって行われ、2012学年度合格者が決定しました。1,550人の応募に対し、648人が合格(海外学友会推薦奨学金^{※1}は現在選考中)。奨学金プログラム別の合格者数は、博士・修士・学部課程奨学金が616人、地区奨励奨学金が16人、クラブ支援奨学金が11人、2012学年度よりスタートした海外応募者対象奨学金^{※2}(個人応募による)が5人です。

国籍・地域別の割合は、中国53.3%(前年度49.8%)、韓国17.6%(17.0%)、台湾4.0%(6.2%)、その他が25.2%(26.9%)です。*前年度の数字はハイライトよねやま132号当時

JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)によると、昨年5月の調査では、日本国内の留学生在籍数は前年の2.6%減と発表されましたが、中国・韓国籍の米山奨学金申込数は昨年より増加し、合格割合も同様の傾向となりました。これらの人数は、他奨学金合格による辞退者が出ることなどにより変動する見込みですが、今回の合格者と昨年度からの継続奨学生171人を合わせた約820人が、2012学年度奨学生となります。

奨学金の種類	合格者
学部・修士・博士課程	616人
学部課程	166人
修士課程	292人
博士課程	158人
地区奨励	16人
クラブ支援	11人
海外応募者対象	5人
海外学友会推薦	選考中



※1 海外学友会推薦奨学金：海外の米山学友会(台湾・韓国・中国)が日本留学予定者を募集し選考する。博士号を有する上級研究者が対象。採用枠は各学友会につき1人。

※2 海外応募者対象奨学金：日本留学が決定している海外在住の外国人が応募できる新制度。応募者の受入校が所在する地区が採否を決定する。



がんばろう東北!

米沢ロータリークラブ
会長 内藤 文徳

米沢上杉ロータリークラブ
会長 中村 隆志

米沢中央ロータリークラブ
会長 赤間 俊明

米沢おしよなロータリークラブ
会長 安孫子正彦

クラブ会員数／出席率

ブロック	No.	クラブ名	2011.7.1 会員数	内女性 会員数	2012.1.31 会員数	内女性 会員数	年初からの増減数		1 月 出席率	年初からの 平均出席率
							増	減		
第1ブロック	1	酒田	38	3	37	3		1	78.43	84.92
	2	酒田東	32	3	34	3	2		86.20	85.25
	3	遊佐	11	0	12	0	1		91.67	90.70
	4	酒田中央	38	0	38	0			80.90	82.63
	5	酒田スワン	17	6	16	5	1	2	100.00	100.00
	6	酒田湊	17	2	16	2		1	89.58	90.07
第2ブロック	7	鶴岡	37	5	40	5	3		74.38	80.28
	8	鶴岡西	33	4	34	4	1		88.24	87.40
	9	余目	26	0	25	0	1	2	77.00	80.53
	10	立川	16	0	16	0			85.41	84.89
	11	鶴岡東	36	1	36	1			72.35	73.71
	12	鶴岡南	24	4	24	4			70.83	73.48
第3ブロック	13	天童	42	1	42	1			91.20	91.56
	14	東根	36	0	38	0	4	1	73.68	81.28
	15	天童東	48	0	49	0	1		85.11	81.28
	16	天童西	20	0	20	0			91.67	92.20
	17	東根中央	37	1	37	1			88.20	87.73
	18	村山	14	0	13	0		1	94.23	96.01
	19	新庄	19	2	20	2	1		80.00	84.41
	20	尾花沢	18	0	18	0			86.10	79.38
	21	最上	20	1	20	1			51.67	56.24
	22	尾花沢中央	16	0	16	0			91.66	92.34
	23	村山ローズ	21	5	21	5			78.80	73.17
	24	新庄あじさい	20	0	20	0			83.00	87.95
第4ブロック	25	寒河江	49	0	49	0	2	2	94.56	90.29
	26	大江	20	1	20	1			90.88	93.71
	27	河北	30	0	30	0			85.86	86.71
	28	寒河江さくらんぼ	34	2	34	2			89.80	91.80
	29	西川月山	16	1	15	1		1	93.33	84.27
第5ブロック	30	山形	86	0	91	0	8	3	99.60	98.20
	31	山形北	70	0	73	0	3		96.97	98.99
	32	山辺	28	0	25	0	1	4	97.92	97.01
	33	山形南	53	1	53	2	2	2	96.13	98.88
	34	中山	15	0	16	0	1		71.88	76.73
	35	山形西	99	0	99	0	2	2	90.84	89.19
	36	上山	11	0	10	0		1	76.67	87.73
	37	山形東	38	0	37	0		1	93.34	94.11
	38	山形中央	36	4	35	4		1	89.71	85.78
	39	山形イブニング	30	0	30	1	1	1	75.86	76.40
第6ブロック	40	米沢	43	6	49	6	7	1	94.56	92.79
	41	米沢上杉	45	2	47	2	3	1	97.15	97.09
	42	高畠	48	3	48	3			88.89	81.38
	43	米沢中央	36	4	37	5	1		98.18	98.35
	44	米沢おしょうしな	28	1	29	1	1		97.70	94.33
	45	川西ダリア	9	0	9	0	1	1	69.50	66.48
	46	長井	34	1	33	1	2	3	90.17	91.91
	47	南陽	20	4	19	4		1	96.50	92.94
	48	白鷹	17	0	17	0			94.11	93.05
	49	小国	16	0	16	0			89.29	82.34
	50	南陽東	42	0	43	0	1		92.86	78.31
	51	長井中央	20	0	20	0			93.30	92.51
	52	南陽臨雲	30	1	28	1	2		50.00	62.79
合 計			1639	69	1654	71	53	33	86.27	86.37

日曜日	地区行事
3/1 木	
2 金	
3 土	第3回諮問委員会／ロータリー財団セミナー(山形市) 第4回ライラ小委員会／第4回GSE小委員会
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	PETS(南陽市)／全国ローターアクト研修会(新潟市)
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	国際ロータリー第1・2・3ゾーン会員増強維持セミナー(東京都)
20 火	春分の日／国際ロータリー第1・2・3ゾーン 第2回ロータリー・コーディネーター・セミナー(東京都)
21 水	
22 木	
23 金	
24 土	
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	
29 木	
30 金	
31 土	2800地区大会(山形市)
4/1 日	2800地区大会(山形市)
2 月	
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	
10 火	

GOVERNOR'S Monthly Letter

3 2012.March 月の地区スケジュール

山形探訪 Yamagata Tanbou



■山形北ロータリークラブ創立30周年記念事業

西蔵王友愛の森「あずまや」

「環境保全運動」プロジェクトの継続発展の流れのなかで西蔵王友愛の森「あずまや」建設と決定されました。会員である中村勝義設計事務所、深瀬組の超我の奉仕により、これまで山形北ロータリークラブが歩み続けてきた30年の足跡を表わそうと云うコンセプトに従って、ご覧の通りの「パルテノン神殿」を彷彿させる調和のとれた見事なものが完成しました。この建造物は極めて頑丈なもので、隠れた基礎部分に特に意をもちい、来たるべき21世紀の百余年を耐え抜くものと思われます。

山形市内7RC寄贈の
モニュメントを順次紹介いたします。



国際ロータリー第2800地区
2011-2012年度ガバナー

細谷 伸夫

ガバナー事務所

〒990-0041 山形県山形市緑町1-9-30 緑町会館3F
TEL.023-674-9777 FAX.023-674-9778

【今回の表紙】

豪雪に見舞われた「宝紅庵」の雪景色

[写真撮影] 松村スタジオ